

会議結果報告書

会議の名称	令和元年度第1回札幌市子ども・子育て会議
日時・場所	令和元年7月9日(火) 10:00~12:00 札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ
出席委員 23名/31名中	安藤慎也、岩松弘毅、内山真理子、香川美由紀、梶井祥子、北川聡子、佐藤裕三、品川ひろみ、柴田田鶴子、下村勝子、巽佳子、豊田直美、平野直己、正岡経子、松田秀夫、松本伊智朗、水岡路代、三井有希子、水戸康智、箭原恭子、山下貴司、山田暁子、吉田賢一 (敬称略)
傍聴者数	2名

議事	概要
1. 中央区2歳女児死亡事案に係る検証の進め方について	<p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> 中央区2歳女児死亡事案に係る検証の進め方について、資料1に基づき説明。 <p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> (委員) 以前の会議で虐待事案に対し人手が足りないという意見であったが、人手の中身も問題であり、ベテランの職員の配置も検討するようにしていただきたい。
2. 新・さっぽろ子ども未来プラン平成30年度実施状況について	<p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> 新・さっぽろ子ども未来プラン平成30年度実施状況について、資料2-1に基づき成果指標の達成状況、主な取組を抜粋して説明。 <p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> (委員) 働きながらの子育てには、職場や住居に近い場所で保育園を探す方がすごく多い。無理をして働きたくはないし、無理をして子育てをするのも大変であり、負担のかからない子育てができるように、各家庭のライフスタイルを見て保育できるようにしていただきたい。 (委員) 子どもコーディネーターは、利用実績からすると、最低限1区1人、10人は必要ではないか。 (委員) アシストセンターのLINE相談は、SNSを活用した良い取組みであり、紙媒体以外での周知手法を工夫してほしい。 (委員) ニーズ調査の結果、夜間時などに、何かあったときに預けられる、助けになる人が全くいない方が2割いる。国の保育施策では、子育て世代包括支援センターが対応するとなっているが、市では24時間体制にはなっておらず、夜間、子どもを預けたいときの対応を考える必要がある。また、市の体制は、母子保健、保育、障がいと分かれているが、ワンストップで子育ての悩みに対応するニーズがあり、子育て世代包括支援センターの充実が必要である。 <p>⇒ (地域保健・母子保健担当課長) 市の子育て世代包括支援センターは、</p>

各区の保健センターを位置づけているが、市民の方にしっかりと周知できていない状況である。妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実施するために具体的にどう連携、機能強化を図るか検討していく。

・(委員) 保育の質の向上について、保育所の職員等を対象に各種研修を開催しているが、どの程度の保育士が参加できているか。特に、認可外の施設は研修に参加することは難しい。

・(委員) 母子保健と障がい、子ども・子育て、社会的養護が政策によって分断されている状況の中で、谷間に落ちてしまう子どもたちがいるのではないか。市では、母子保健と子ども未来局だけではなく、障がい児関係の機関も含めて子育て世代包括支援センターというワンストップで相談ができるように考えていただきたい。

・(委員) ニーズ調査では、遊び場、プッシュ型の情報発信のニーズがあったが同感である。特に、冬場に遊べる場所が少なく、児童会館も時間設定の決まりが多く、ふらっと遊びに行ける環境ではない。また、広報さっぽろは、イベント情報の誌面掲載が少なくなっており、情報発信の工夫が必要である。

・(委員) 資料2-1の9ページに「保育を望む保護者が安心して必要なサービスを受けられるための保育環境の整備や、市の関係部局が連携のうえ企業への働きかけを強化」とあるが、具体的には。

⇒(子ども企画課長) 企業への働きかけとしては、男性の育休の取得状況が低い、あるいは、男女問わず育休をとりづらい環境があることから、経済観光局や男女共同参画室と連携し、育休を取得する企業に対し助成金を出す事業、アドバイザーの派遣、セミナー等を実施し、子育てに理解のある企業を増やしていこうとしている。

・(委員) 企業主導型保育園の質の問題が気がかりである。研修を受けにくいという情報もあり、立入り調査や指導だけではなく、レベルを上げたアプローチが必要。

⇒(指導担当課長) 企業主導型保育園も含めた認可外保育園へのアプローチとして、今年度は5回ほど研修を行うほか、年に1回の立入り調査にて、指導を実施している。立ち入り調査をする人員も限られており、体制について検討が必要と認識している。

・(委員) 資料2-1の14ページに、「ひとり親になったばかりの方を対象にガイドの作成に着手した」とあるが、具体的には、いつ、どのように配布しているのか。毎年の児童扶養手当の支給調査の面談時の機会を活用するなどして、具体的に説明することが必要ではないか。

⇒(子育て支援課長) ひとり親家庭向けの暮らしのガイドは平成31年4月に完成しており、離婚届を提出された際に各区の戸籍住民課で渡すほか、ハローワーク、ひとり親家庭支援センターなどで配っているところ。

・(委員) 子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合が10ポイント減っているが、働きながら子どもを育てる方は、自分の子どもが病気に

	<p>なったときに預かってもらえるところがほしいということで、子育てサポートセンター事業の活動をもう少し進められるとシステムが充実するかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 相談支援パートナー、教育支援センターの機能の充実について、目標値が不登校状況の改善になっているが、例えば、フリースクールや支援施設に通うことについての補助、サポートがなく、通おうと思ってもお金がない、遠距離であるというところの大変さがある。今後、目標値をどこに置くのか、全国的な統計では、どこにもつながっていない、学校内外でも相談、支援を受けていない子どもたちが3割ぐらいおり、この辺りを評価の対象にして、つながる支援、つながるためのサポートについて検討いただきたい。
<p>3. 新・さっぽろ子ども未来プランの改定について</p> <p>①札幌市就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査の結果について</p> <p>②次期「新・さっぽろ子ども未来プラン」骨子案について</p> <p>③次期「新・さっぽろ子ども未来プラン」における教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」について</p>	<p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査の結果について、資料3に基づき説明。 ・次期「新・さっぽろ子ども未来プラン」骨子案について、資料4-1に基づき説明。改定に向けたスケジュールを資料4-2に基づき説明。 <p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) プランの考え方について、基本目標、基本施策に事業を入れ込むという形が想定されているが、縦割りになってしまうことが懸念される。例えば、コーディネーターとスクールソーシャルワーカー、相談拠点がどうなるのかを横の視点で計画に入れ込むべきである。例えば、中学校区を念頭に置くと、担当のスクールソーシャルワーカー、ケースワーカーなどの資源がつながるのではないかと。つなげていく努力をすることが大事である。 <p>⇒(子ども企画課長) 資料4-1の計画体系の基本目標3、基本施策3の地域における子どもの成長を支える環境づくりは、地域の中でどのような連携ができるかという視点で柱を設けているが、さまざまな施策の中で横の連携が重要だと認識しており、指摘いただいた視点を盛り込みながら、次のプランを取り組んでまいりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 横の連携で、誰が資源をつなげ、コーディネートをするかを考えていかないと、資源があるのにつながれず、救われない親子が生じると思われる。また、児童発達支援センターが保育園保育士の研修の応援をしようとしても、局が違うから難しいと言われるなど、バリアがある。平成30年4月に障がい児の福祉計画が初めて策定されたが、このプランと整合性を持った計画にするべき。また、社会的養護において、障がい児は多くいることを念頭に置くべきである。 <p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期「新・さっぽろ子ども未来プラン」における教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」について資料5-1に基づき説明。

	<p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 子育て短期支援事業のショートステイについて6カ所しかないため、拡大が必要である。 ・(委員) 10月から幼保無償化が施行されることを、教育・保育施設の量の見込みにも見込んでいると思うが、今まで幼稚園から認定こども園化が進まなかった経緯について、市の設置基準で何か問題はなかったか。質の向上、研修体制、保護者が求める幼児教育とは何なのかも盛り込みながら検討していただきたい。
4. その他	<p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 虐待の死亡事例の検証について、過去3回の提言があるが、市として、その都度、どのように受けとめているのか、市がしてきたことに対する検証、評価をしていただきたい。例えば、区と児童相談所の関係、教育部局と福祉部局の関係は、当初の検証時から指摘されており、検証する側として無力感が生じる。例えば、区と児相の関係についての検証をしないで、児相を2つに分ける、という結論にはならないであろう。このような観点から、過去の事案の報告書とそれに対する対応、この間の問題に対する対応について、市として検証いただきたい。 ・(委員) 児童福祉部会に所属したいが、部会の所属はどのように決まっているのか。 <p>⇒(子ども企画課長) 会長が指名することが条例で定められている。</p>

(議事概要について発言者内容確認済み)